



平成 27 年 5 月 14 日

各 位

会 社 名 株式会社フォーバル  
代表者名 代表取締役社長 中島 將典  
(コード番号：8275 東証第一部)  
問合せ先 常務取締役 加藤 康二  
電話 03-3498-1541

**子会社フォーバル・リアルストレートの営業外収益の計上、通期業績予想と実績値との差異及び前期実績値と当期実績値との差異に関するお知らせ**

本日、当社の連結子会社である株式会社フォーバル・リアルストレート（コード：9423 JASDAQ）は、平成 26 年 5 月 13 日に公表しました平成 27 年 3 月期連結・個別業績予想について、また前期実績値と当期実績値の差異について別添資料のとおり公表いたしましたのでお知らせいたします。

なお、本件による当社の業績への影響は軽微であり、当社の業績予想の修正はございません。当社の連結業績につきましては、本日開示する予定であります。

(添付) 株式会社フォーバル・リアルストレート開示資料  
「営業外収益の計上、通期業績予想と実績値との差異及び前期実績値と当期実績値との差異に関するお知らせ」

以 上

各 位

会 社 名 株 式 会 社 F R S  
 (登記社名 株式会社フォーバル・リアルストレート)  
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 吉 田 浩 司  
 ( J A S D A Q ・ コ ー ド 9 4 2 3 )  
 問 合 せ 先 取 締 役 管 理 部 長 早 川 慎 一 郎  
 ( T E L 0 3 - 6 8 2 6 - 1 5 0 2 )

## 営業外収益の計上、通期業績予想と実績値との差異及び 前期実績値と当期実績値との差異に関するお知らせ

平成26年5月13日に公表いたしました平成27年3月期(平成26年4月1日～平成27年3月31日)の業績予想と本日公表の実績値につきまして、下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。

併せて、前期実績値と当期実績値に差異が発生しましたので、お知らせいたします。

記

### 1. 業績予想と実績値との差異について(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

#### (1) 連結

(百万円)

	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	10	10	8	0円38銭
実績値(B)	0	21	16	0円75銭
増減額(B-A)	△9	11	8	—
増減率(%)	△99.3	114.6	103.9	—
(ご参考)前期実績 (平成26年3月期)	△55	△55	△69	△3円27銭

#### (2) 個別

(百万円)

	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	9	9	8	0円38銭
実績値(B)	0	21	16	0円75銭
増減額(B-A)	△8	12	8	—
増減率(%)	△93.2	138.2	104.4	—
(ご参考)前期実績 (平成26年3月期)	△46	△55	△69	△3円28銭

### 2. 前期実績値(平成25年4月1日～平成26年3月31日)と当期実績値(平成26年4月1日～平成27年3月31日)との差異について

#### (1) 連結

(百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績(A) (平成26年3月期)	565	△55	△69	△3円27銭
当期実績(B) (平成27年3月期)	686	21	16	0円75銭
増減額(B-A)	120	76	85	—
増減率(%)	21.2	—	—	—

## (2) 個別

(百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績 (A) (平成 26 年 3 月期)	237	△55	△69	△3 円 28 銭
当期実績 (B) (平成 27 年 3 月期)	299	21	16	0 円 75 銭
増 減 額 (B - A)	61	77	85	—
増 減 率 (%)	25.8	—	—	—

## 3. 差異の理由

当連結会計年度において、当社グループは顧客企業の移転時における、不動産物件の仲介から内装工事、各種インフラの整備やオフィス機器・什器の手配までをトータルにサポートするソリューション事業を中心に事業活動を行ってまいりました。不動産仲介につきましては、顧客単価は前年度比で約 21%の増加となったものの、成約件数が約 27%の減少となり、予想を下回りました。一方、内装工事や OA 機器・什器の販売につきましては、成約件数は横ばいながら顧客単価は前年度比で約 12%の増加となり、併せて平成 26 年 8 月よりフォーバルグループ各社より出向社員を受け入れ営業人員を増強したことから、予想を大きく上回りました。また、第 3 四半期連結会計期間までの取引について、会計処理を再度検討した結果、一部を営業外収益として計上することといたしました。具体的には、親会社及び関係会社との取引のうち、売上高として計上しておりました取引の一部を、営業外収益として業務受託収入 19 百万円及び関係会社業務受託収入 3 百万円といたしました。

その結果、営業利益につきましては当初予想を下回りましたが、売上高、経常利益及び当期純利益につきましては、当初予想を大幅に上回る結果となりました。

(注) 平成 27 年 3 月期の業績の詳細につきましては、本日公表の「平成 27 年 3 月期 決算短信」をご参照ください。

以上